森のめぐみ ～地球環境時代の新しい林業～

林業界に新しい風を吹き込む事業者が集結!!

林業界には新しい風が吹いています。これまで、木材価格の低迷、放置された森林の増加等、どちらかというと暗い話題が少なくない林業界ですが、脱炭素社会の実現に向けた「森林を温暖化ガスの吸収源としたJクレジット」、「木材を余すことなく活用できる木質バイオマス発電」、「国産木材利用拡大の動き」等の明るい話題を聞くことも増えました。本セミナーでは、Jクレジット等に取り組む事業者の他、川上から川下に至るそれぞれのプレーヤーが取り組む先進的な事例をご紹介します。林業の新たな可能性を感じ取ることができる内容になればと思いますので、林業関係者に留まらず、林業に関心のある方も是非ご参加ください。

開催日時
2024年３月８日（金）第一部　13時30分～17時00分（12時30分開場）
第二部　17時30分～19時00分（懇親会）

開催場所
京都府立大学 下鴨キャンパス 稲盛記念会館１階103号室
（講演会後に同館食堂（deli café たまご）にて懇親会開催）

参加対象
林業関係者及び林業、SDG s にご関心がある方
講演聴講：無料、懇親会：5,000円

参加方法
右の二次元コードからお申し込みください。
（期限：３月６日（水）１２時、先着１００名）

内容
13:30　開会挨拶
13:40～16:40　６講演
16:40～17:00　全体講評

【講演者】
①株式会社 志賀郷杜栄　②岩井 吉彌(元京都大学教授) ③京北プレカット 株式会社 ④林ベニヤ産業 株式会社

KEIHOKU PRECUT

HAYASHI

⑤JACQUET Benoit(建築家) ⑥株式会社 竹中工務店

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

【懇親会にて】
京都府立大学森林ボランティアサークル「森なかま」の活動を披露いただきます。

【全体講評】大学教授　宮藤 久士(京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻)

（主催）日本政策金融公庫、公庫林業友の会
（共催）京都府立大学生命環境学部森林科学科
（後援）近畿中国森林管理局、近畿財務局、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
滋賀銀行、京都銀行、関西みらい銀行、みなと銀行、南都銀行、紀陽銀行
滋賀中央信用金庫、京都北都信用金庫、兵庫県信用組合、大和信用金庫
日刊木材新聞社

（お問い合わせ窓口）日本政策金融公庫農林水産事業本部近畿地区総括課（担当：松本、吉岡）　TEL 075-221-3782

登壇企業の概要

企業名	事業内容
(株)志賀郷杜栄 代表取締役　今西 恵一 （京都府綾部市）	志賀郷杜栄グループ、サンライトエナジー、エネルギー商社において素材生産とJクレジット、バイオマス発電を組み合わせた新しい取組みを開始。森林整備後に出る林地残材を、バイオマス発電の燃料材にするための試験施工中。2023林野庁実施の「森林×脱炭素チャレンジ」にて、林野庁長官賞を受賞。手入れが遅れていた地元共有林において、建設業で培った技術を活かして高密度の作業道を開設。また、トレーラーハウスや生活用品など、間伐材を有効活用した製品も開発販売。
岩井 吉彌 (社)北山杉2100　理事長 元 京都大学林学科教授 （京都府京都市）	昭和20年京都市生まれ。家業の北山林業に従事しながら、京都大学農学部林学科教授として国内外の林業を研究。研究者として海外の視察も長期にわたる等、林業事情に関し幅広い知見を有する。京都大学を退官後も、家業の林業の他、日本の林業経営の現状と今後について著書に記すなど、精力的に林業に関わっている。著書に「山村に住む、ある森林学者が考えたこと」、「ヨーロッパの森林と林産業」など多数。
KEIHOKU PRECUT 京北プレカット(株) 代表取締役　安藝 敏哉 （京都府京都市）	1991年創業の京北プレカットは、柔軟な発想と確かな加工技術に加えて先進の設備を導入することで、高精度なプレカット加工を実現。近年やさしい無垢の手作りおもちゃ「IKONIH（アイコニー）」を日本の山林から世界の子どもたちへ届けている。現在、バイオディーゼル製造時の副産物（グリセリン）を用いた高機能木材製造技術を確立するため京都府立大学と共同研究実施中（「産学公の森」推進事業）。
HAYASHI 林ベニヤ産業(株) 代表取締役　内藤 和行 （大阪府大阪市）	大手合板製造業者。1946年の創業以来、日本で初めて針葉樹合板の量産システムを完成させるなど、業界において先駆的な取組みを続けています。近年は、自社工場から出る端材や地域の未利用材をチップ加工したものを原料にバイオマス発電へ取り組むほか、合板原料となる木材の安定確保を目的とした川上部門の強化など、「持続可能な林業」、「持続可能な経営」をキーワードに、積極的な事業展開をしています。
JACQUET Benoit 建築史研究者・建築家 （京都府京都市）	建築家、工学博士、フランス国立極東学院准教授、パリ・ラヴィレット国立高等建築学校客員准教授。京都大学の研究員、客員准教授として日本の近現代建築史を研究した後、2014年に竣工した京都のフランス国立京都学院研究所の建設中に北山杉の美学に出会う。その後、『大工と建築家：日本における木造建築の歴史』（EPFL Press, 2019, 2021）を出版し、現在は京都の町家を研究している。京都の町家や空家・空ビルの改修・再生に取り組む中で、北山杉の柱や垂木の現代的な利用法を模索している。
想いをかたちに 未来へつなぐ TAKENAKA (株)竹中工務店 木造・木質建築推進本部 シニアチーフエンジニア 小林 道和 （大阪府大阪市）	木のイノベーションは、建設市場での森林資源の活用を押し進め、より活発な経済と資源の循環が期待できます。林産県を中心にこの循環が起こることで、地方都市やまちに、サステナブルな都市構造への再編を促します。木材利用の場が拡大すると木材需要が創起され、林業の復活とそれによる森林再生、また富と資源の循環に繋がります。当社は、森林資源と地域経済の持続可能な好循環を「森林グランドサイクル®」と名付け、その構築に向けて、林業事業者・各自治体など各方面のステークホルダーとの連携を進めています。

全　体　講　評

大学教授　宮藤 久士（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻）

1971年山口県下関市生まれ。1994年京都大学農学部林産工学科卒業。2000年京都大学博士（エネルギー科学）取得。地球規模でのエネルギー・環境問題が取りざたされる中、カーボンニュートラルで持続可能な資源として木質バイオマスに着目。化石資源代替として木質バイオマス資源の利用促進は、極めて重要な課題であり木質バイオマス資源から、バイオ燃料や有用ケミカルスを生産しうる化学変換技術について、研究。研究成果は、低炭素社会や資源循環型社会の構築に貢献しうる。2017年5月 日本木材加工技術協会第16回市川賞受賞、2019年3月 第59回日本木材学会賞受賞ほか受賞歴多数。